

週日の説教

金 大烈 神父 2010年10月1日(金)

《悔い改め、赦しの秘蹟自体が癒しの場》

主の平和

ようやく秋らしくなって来ましたが、今年もあっという間に秋は去ってしまうのではないかと思います。季節の変わり目で体も敏感になりますので、適当な対応をなさして下さい。

司祭が信者さんの前で一番言い難い話の一つは、罪に関する話だと思います。なぜなら、皆、気持ちよく力をいただこうと集まったのに、司祭が説教台で罪について話してしまうと雰囲気はやっぱり重くなります。そして、話しながらも私自身自分のなかにある罪が浮かんで来るので、あまり話したくない気持ちになります。しかし、やらなければならないのが罪についての話だと思います。

今日の福音(ルカ 10・13-16)を読んで、皆様はいつも気軽に「コラジン、ベトサイダ、カファルナウムは何か悪い事を行ったので、イエス様も心を痛めたのかも知れない。」と多分理解したと思います。しかし、この言葉を私達各自が、自分に対するイエス様の目線だとはあまり思わないでしょう。もしそのように思ったらどうでしょうか。もしイエス様が、一人一人の方に公共の福音を伝える話だと私達が考えることが出来れば、やっぱりこの福音を読む心が変わると思います。

さあ皆様、私達は今癒しに与ろうとしてミサに来ています。癒しのために一番必要なものは何としますか？癒しをいただくために最も必要なものは何でしょうか。それは“悔い改め”です。これは変わらない真実です。なぜなら私達の信仰の始まりは“悔い改め”から始まります。“悔い改め”無しに頭だけ色々な神学的知識を入れても、その人は絶対に救われません。

皆様、私も赦しの秘蹟を受けるのが苦手です。ですから、その秘蹟をいただかなければならない時、本当に負担に思います。どちらの司祭に告解したらいいかと神学生の時からそうでした。多分皆様もそうでしょう。赦しの秘蹟を受けるためには、色々と自分が間違えたことを思い出して振り返り疲れます。しかし、その過程がなかったら絶対私達は信仰的に進むことが出来ません。ですから赦しの秘蹟を強調することです

毎月一回癒しのミサを捧げる前に、私は意識的に赦しの秘蹟に受けるようにお勧めしたいのです。皆様、やってみてください。ただ形式的ではなく、義務的でもなく、本当に痛い罪だと思われるものを一つ一つ書き出してみてください。そして内に入って下さい。嫌がらないで下さい。

何故癒しのために“悔い改め”が必要なのかと言いますと「悔い改め、そして赦しの秘蹟自体が癒しの場」だからです。そこから癒しを、赦しの秘蹟をもらう、そして私が罪を告白して赦される。そのこと自体が癒しの働きだと私は信じます。そのなかで私達が少しでも御旨の体験できれば私達は救われます。

もう一回考えてみましょう。私達はこのミサに与るために心の用意をどのくらいしながら今まで来

たのか、御聖体をいただくために、私はどのくらい準備して迎えようとしたのか考えてみましょう。今、私の心のどこかには憎しみで満ちたものがある、無意識的にも何か嫌がられる存在としてここに一緒にいるのではないかと考えてみましょう。物のために、色々な関わり、大事なことを失っているのではないかと振り返ってみましょう。

皆様、嫌がらないで下さい。“悔い改めの心”も私は恵みだと思います。許されていない人には絶対“悔い改める”機会が与えられません。もし少しでも「これは悪かった」と思うことがあれば、そのことに集中して下さい。それが恵みです。

もう一回皆様に申し上げます。“悔い改め”がなかったら、心からの痛悔がなかったら、私達は絶対神様の愛を体験出来ません。赦されたから感謝の気持ちが生じます。赦されたから喜びます。赦されたから具体的に一对一の関わりが出来ます。文章によって、聞くことによって、頭では絶対体験が出来ません。

皆様、一日は本当に尊い時間です。大事な時間です。いつ呼び掛けられても「私は大丈夫」という準備がいつも私達には要求されていることを意識しましょう。本当に大事な瞬間、瞬間が、過ぎてしまうのが私達の人生ではないかと思えます。

ありがとうございました。